

## 学校紹介

静岡理工科大学  
建築学科

- 創立 1991年
- 静岡県袋井市豊沢2200・2
- 電話05388・45・0111



建築学科棟enTree (えんつりー)

建築物を造るには、多くの分野の知識が必要で、インテリアデザインから地域防災学まで幅広く学びます。建築計画・建築デザイン分野では、建築計画意匠について新しいプロセスやアプローチ、手法を立案。建築構造・材料分野では、新しい構造や材料を用いた建物の耐震設計法の提案や部材評価法を立案。建築環境・設備分野では、新しい建築設備の在り方の提案や建築分野のエネルギー問題の解決法の立案を行います。

<http://www.sist.ac.jp/>

て、様々な専門の講師を呼んで、建設産業の現状をまずは座学で学び、さらに現場を体験して、自分の考えにあった職業を選べるようにしたいと思っています。また、専門科目として数多くの防災関連の授業を用意しています。

**高田** インフラの整備は、われわれの生活を確立するうえで大事なことです。東日本大震災の現場に行つて、そういう意識を強める教育をしていただいているのは、うれしいことです。生活がしやすく、生活が楽しくなるインフラを整備したいという希望をもった若者を、建設産業に供給していただきたいと思っています。

## 建設産業は長時間労働を止める方針を打ち出す必要がある

**市川** 教育界と産業界は、どのように関わっていけばいいのでしょうか？

**丸田** 大学は産業界が一番近いところにありますから、地元の企業と一緒に独自のものを開発して供給できるスタッフをそろえています。大学には、民間企業からおカネを持ち込む受託研究、共同研究、いろいろな研究スタイルがあります。静岡県の企業や行政からの依頼による実験やデザイン開発に柔軟に対応していきたいと考えています。

**西村** 休日の少ないことが、生徒が建設産業への進路を敬遠する大きな要因になっていると思います。しかし、生徒と年齢の近い現場監督さんから体験談を聴く

機会を設け、生徒たちに身近に建設産業を感じてもらうことで、印象が変わってくると思います。

**坂本** 2015年は5名の女生徒が建設産業に進みました。結婚後も、出産後も、仕事を続けたいという希望をもつています。求人票を見て、育児休暇、介護休暇、看護休暇等に注目していました。高校生が、建設産業に望む改善点ですので、対応をお願いしたいです。

**丸田** 建設産業に人気がない要因として、時間がものすごく拘束されるのではないかと心配が学生にはあります。学生を採用するには、建設産業が長時間労働を止めて福利厚生を充実する方針を打ち出す必要があります。

静岡理工科大学  
教授  
丸田 誠 さん

地元企業と一緒に独自のものを開発するスタッフをそろえています。

**高田** 頭の痛い話です。単品生産で、できるだけお客様の要望に応えて、いいものをつくるには時間がかかる。制度上は産休や育児休暇を用意していても、業務にかかると難しい。求人票に情報を提供するからには、それを守る努力をしていかなければなりません。

**市川** 官庁では週休2日を守る工事が増えています。課題は民間工事です。

## 20年後の静岡を守ってくれる若者の力を我々が磨いていく

**市川** 最後に、20年後の静岡へむけたメッセージをお願いします。

**丸田** 静岡県は温暖だし、人も良いし、食べ物もおいしい。ただ、地震・津波や台風の影響が高いので、静岡県を守りたいという学生たちが20年後に育つて、活気のある静岡県を作っていくってほしいです。そのためには、建設産業の歪みを直して、我々が若い人たちをフォローしていかなければなりません。

**西村** 街づくりは人づくりであると考えます。地域社会で柱となる生徒を建設産業へ送り出せるように尽力したいと考えています。

**坂本** ここ数年、建設産業が変わろうとする大事な時期ですので、産学官が連携して、担い手の育成を実現していきたい。私たちの仕事は、高校生の適応力を磨くことです。卒業時には、2級土木施工管理技術検定試験の全員合格と測量士補試験の10名合格を目指したいと考えています。

**高田** 産学官の交流と言いますが、私どもは学との接点がありませんでした。いろいろなお話を聴いて、学との情報交換は大事だと思いました。これを機会に、我々が住んでいる静岡が少しでも良くなるように、皆様と意見交換して考えていきたいと思います。本日は、ありがとうございました。